

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
7 5	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)	
<p>Alcohol dehydrogenase type 1C (ADH1C) variants, alcohol consumption traits, HDL-cholesterol and risk of coronary heart disease in women and men: British Women's Heart and Health Study and Caerphilly cohorts.</p> <p>アルコール脱水化酵素タイプ 1C (ADH1C) 多型性、飲酒量、HDL コレステロールおよび冠動脈疾患の危険性 British Women's Heart and Health Study and Caerphilly cohorts.</p>	
執筆者	
Ebrahim S, Lawlor DA, Shlomo YB, Timpson N, Harbord R, Christensen M, Baban J, Kiessling M, Day I, Gaunt T, Davey Smith G.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Atherosclerosis. 2008 Feb;196(2):871-8.	
キーワード	
アルコール、ADH1C 多型遺伝、HDL コレステロール、冠動脈疾患	
要 旨	
<p>アルコール脱水化酵素 1C 遺伝子 (ADH1C) <math>\gamma 2\gamma 2</math> 多型性は中等量の飲酒において HDL コレステロールの上昇や冠動脈疾患 (CHD) の減少に交互作用があると報告されている。我々は女性と男性において大きな 2 つの複製研究を行った。2 つの前向きコホートから妥当な遺伝子型や表現型を持つ 3243 人の男性と 1313 人の女性が ADH1C 多型性の中で分類された。ADH1C 多型性と HDL コレステロール、血圧または CHD の発生率との関連は見つけられなかったが、ADH1C は飲酒量と関連があった。ADH1C 多型性は中等量における飲酒量と HDL コレステロール、血圧または CHD 発生率との関連において交互作用を認めた。生涯を通じた女性の禁酒は有害な危険因子プロフィールを持っていった。我々の結論は、ADH1C 多型性が中等量の飲酒者において CHD リスクと関連があるという仮説を支持するものではない。</p>	